

初級聞きとりの授業における毎日の聞きとりのメディアオーディオを像用

(2017・2018年どのジョグジャカルタムハマディア大学日本語教育学科の一年生学習者に対する記述的欠せき)

アンディ ラエリ イズナエニ

20130830006

要旨

日本語、英語とおなじ 非常にグローバルな言語である。日本語教育を受けているすべての大学では、日本語の文学か、日本語教育のいずれかが、発言能力、懲戒能力、筆記能力、読み能力という四つの基本能力を持っている。この論文では、日本語の学習者が興味を持ち、日本語を学ぶときづげができるように、音声メディアを使った学習メディア初級聞きとりを募集したいである。

日本語学習者、特に初心者の方は録音メディアを使って初級聞きとりを学ぶ上で日本語を学ぶのが難しい、学校で日本語を覚えたことがない人である。日本語の学習者だけで日本語の学習者と同じ事例を学んだり、初心者が初級聞きとりを学ぶのが難しい考える。

本稿では、日本語学習者時に聞き取り能力のある初級聞きとり聞き手の能力でも呼び出すことができる初級聞きとり学習の初心者特に初級者にモチベーションを与えたいと考えている。

キーワード : 日本語、メディアオーディオ、初級聞き取り、毎日の聞きと

1. 序論 Da

The Japan Foundation の2015のちょうさによると、学習者の数について日本のインドネシア語は10カ国のうち二つにランキインである。ほとんどが中級レベルの学習者である。日本語の習得には、能力、懲戒野力、ライティング能力、読み能力を話す学習者が所有しなければならい四つの言語能力がいる。

筆者の経験によれば初級聞きとりは難しい科目の一つである。学習である。学習者のしばしば直面する問題日本語初級初心者レベル初心者初級聞きとりは。特に経験がない学習者にとっては難しいと感じました多く使用されている語彙や速

い日本語のスピーチのスピードを考えてすると、スピーチ情報も様々である。これは生徒が初級聞きとりが難しいと考えている減いのである。

ジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学料の学習プログラムでも、初級聞きとりを学習する中で、学習媒体を音声の形で使用している。これは学習者のための KPT (Kurikulum Pendidikan Tinggi) 2017 のカリキュラム内容と一致しています。初級聞きとりはオーディオメディアを通して聴く教材を持っている。KPT は、マランブラウイジャヤ大学の開発分野の専門家である Prof. Dr. Hendrawan Soetanto 教授によると、KKNi (インドネシア国家資格のカリキュラムベースの枠組み) を指す高等教育のカリキュラムである。

効果の重要性や、雑誌の使用に関する学生の反応も初級聞きとりで毎日聞きながら、研究者は論文のタイトルを選んだ“用法がメディアがオーディオに毎日の聞きとり 1 以内が勉強初級聞きとり (研究に記述的なが反対に一年生に学年を 2017/2018 日本語の教育ジョグジャカルタムハマディヤ大学) ”。

本論分では、以下の二つの問題の定式化について議論である：

- a. どのようにこの本にオーディオメディアのアプリケーション毎日聞きながら。
- b. どのように彼らの指導方法についてのジョグジャカルタの 1 つの日本語教育プログラムムハマディヤ大学の学生の回答率初級聞きとり、オーディオ本の形で教育メディアを使用して毎日聞きと。

本の論文では、この研究に関連する基本的な理論を以下のテーマで説明している：

- a. 学習初級聞きとりは、聞き取り能力の義務の一つである日本語教育と日本文学の両方を日本語学習者が習得しなければならない学習である。
- b. 音声の形態の学習媒体は、人間によって補足されるためには少なくとも 20 回/秒で強くなければならない物体の振動から生成することができる音である。

2. 参考文型

H.G Tarigan による理論は、運動をうまく聞くためのスキルを身につけるためにアクティビティ勉強するの生徒である。練習で学習することで、教師は話すだけでは十分ではないので学生はうまく聞きとりである。学習活動の実施の枠組みの中で可能な限りのような支援環境を持っている必要があり教室の雰囲気聞くこと：

- a. 学習に挑戦したり、刺激する。
- b. 生徒に学習を可能にする。
- c. 個別にまたはグループに学生の出現の学生の創造を開発する。
- d. 生徒が学習教材を理解しやすくなりいる。

- e. 学生の学習活動を目標に向かわせてである。
- f. 練習が簡単で、複雑な機器を必要としませんである。

アクティビティプロセスをサポートするために実装されるいくつかの推奨される方法は以下のとおりである。

- a. この方法は、文章コマンドを発音させることによって行われた作業を差し、次に講師によって話された命令を実行するための生徒を指す；
先生：トニー、あなたの友人“b”をさしている。
トニー：（講師の指示に従って、ピックアップして彼の友人に文字“b”を指すである。
- b. 方法推測されたを見てください。
この方法では、講師はその名前に言及することなく物体の記述を準備する。説明は生徒に伝えられ、生徒は講師が何を意味しているかを聞き、推測する。例えば：
講師：形は丸く、小さく、長く、まっすぐです。正面はスパイク状になっています。
学生/ i：鉛筆

アンダーソンの言葉によると、聞き取り、言葉の兆しを聞くという素晴らしいプロセスとして、聞き取り（キキトリ）。

Iskandarwassid と Suhendar (2013 : 227) の Brown (1995) は、以下のように、聴取活動に5つのプロセスがあると述べた。

- a. 聴覚は生の音声を処理し、短期記憶の中から画像を記憶する。このイメージには、聞いた一連の会話からフレーズ、句、句読点、イントネーション、および単語の圧力パターンが含まれている。
- b. リスナーは、各会話が進行中のタイプを指定します。リスナーは、例えば、会話が対話、スピーチ、ラジオ放送などであったかどうかを再決定し、その後、彼が受け取ったメッセージを解釈しなければならない。
- c. リスナーは、会話、文脈、内容のタイプと種類を考慮して、話し手の目的と目的を探しである。
- d. リスナーは、主題の文脈で背景情報を（自分が所有するスキーマを通じて）呼びである。経験と知識は、伝達されたメッセージの解釈を提供するために認知関係を形成する際に使用される。
- e. リスナーは、聞いたメッセージの文字通りの意味を探します。このプロセスは意味論的解釈活動を伴う。

以上のことから、インドネシアにいる日本語学習者のための「就活きりとり」の学習は、聞き手である日本の学習者が持つべき能力があるため、非常に重要であると結論づけることができる。

Tarigan (2008 : 37) は、リスンの目的は、情報入手し、コンテンツをキし、スピーチがスピーチによって伝える通信の意味を理解することであると語った。チャプチャ Tarigan (2008 : 38) はまた、リスニング・バラエティが 2 つのタイプに分けられることを示唆している :

a. 広範囲に聞く

広範囲のリスニングは、より一般的で、1 つのスピーチのないリスニングアクティビティの一種であり、必ずしも先生の直接指導の下ではない。タイプ型のリスニングには :

1) リスニングソーシャル

ソーシャルリスニングは、通常、社会的な状況で行われます。そこでは、人々が興味を持っているすべての人にチャットやチャットをしている。

2) セカンダリリスニング

セカンダリリスニング (二次リスニング) は、大規模なダムの一種のリスニングアクティビティである。

b. 集中リスニング

集中聴取は、より自由に、より一般的には、教師の直接の指導のもとで行う必要がある聴取活動に向けられている。集中的なリスニングのタイプには次のものがありました :

1) 批判的に聴く

クリティカルリスニング (クリティカルリスニング) は、強くて常識的に受け入れられる理由で、ミスやミス、スピーカーの良好で正確なポイントを検索するという形でのリスニングアクティビティである。

2) 控えめに聞く

保守的なイラスト (喜ばしいイラストレーション) は、しばしば一種の研究を聞いたりするスタディタイプとも呼ばれる。

3) 選択的に聞く

選択的なリスニングは受動的なリスニングに取って代わるべきではなく、代わりに装備するべきである。

Tarigan (2008:63) は、リスニングはプロスである活動であると語った。リスニングの過程では、次のようなステージもと思うのである :

- a. 聴覚段階。この段階では、講演者がスピーチで演説することができるものを聞くことができる。私たちはまだ聴覚段階にいる。
- b. 理解段階。私たちが聞いた後、話し手の話の内容を理解し理解することが望まれるのである。理解の段階にである。
- c. 通訳の段階。講演者の発話内容を聞いて理解することに満足していない、丁寧で細心のよい聞き手。彼は発言に含まれている内容と意見を解釈したり解釈したりしたい。したがって、リスナーは通訳段階に達している。

- d. ご理解の後、舞台を評価し、会話の内容を解釈または解釈することができ、リスナーにも長所と短所だけでなく、優しさや欠点スピーカーについてスピーカーの意見やアイデアを評価し始めました。そう、評価段階までにはである。
- e. ステージレスポンス。この段階はリスニング活動の最後の段階である。リスナーは、スピーチや会話でスピーカーが表現したアイデアやアイデアを歓迎し、記憶し、受け入れ、受け入れである。その後、応答の段階にリスナーと思う。

したがって、リスニングステージは 5 つのステージに分割される。聴覚段階、理解段階、解釈段階、評価段階、応答段階などが含まれる。良い聴衆は 5 つのステージを実行である。学習プロセスで聴く（集中的に聴く）と、他人とチャットしながら（広範囲に聴く）聞くことの両方が可能になりました。

初学期の 1 学期に勉強した紀要の科目に使用されているカリキュラムは、義務科目である KPT2017 である。KPT 2017 (Higher Education Curriculum) は KKNi を指す高等教育のカリキュラムです。コース就活記念館で使用されている KPT 2017 のいくつかの点である。

キキトリの意味の説明に基づいて、日本語学習におけるキキトリ学習（アマンダ（2014）の主要な要素である、物質の理解を伴うリスニングイベントが、日本語（キキトリ）のスキル面の 1 つであることを示している。しかし、聞き取りをしてから、日本語でメッセージを理解し理解することは容易ではありません。

一般的にメディアを学習することは、教授と学習プロセスのツールである。一方、Briggs (1997) によると、学習媒体は、書籍、映画、ビデオなどのコンテンツ/学習教材を配信するための物理的手段である。次に、全米教育協会 (1969) によると、学習の媒体はスピーカー技術を含む印刷と聴覚の形式でのコミュニケーションの手段であることが明らかになると思う。

参考文献

Wati, Silvia Nuarita. 2017. Penerapan Media Lagu pada Pembelajaran *Chuu joukyuu Choukai* Studi Deskriptif Mahasiswa PBJ Tahun Ajaran 2015-2016. Skripsi S.Pd pada FPB PBJ Yogyakarta: Tidak diterbitkan.

2. 本論

この研究では、研究者は定性的アプローチによる記述的研究方法を用いた。Sugiyono (2009 : 21) 記述的研究とは、研究成果を記述または分析するために使用されるが、広範な結論を導くために使用されない方法である。一方、モウによると、Nazir (2003 : 4) 記述的研究は、人間グループ、物体、条件のセット、思考のシステム、または現在の出来事の種類の状態を調べる方法である。

この研究の主題は、2017/2018 年度のジョグジャカルタのムハマディヤ大学日本語教育学習プログラムの最初の学期の学生で、20 人に相当するクラス A の 1 つの学科コースしか取らないということである。

a. 人口

Sugiyono (2006 : 117) の人口は、研究対象の研究者によって設定された一定の性質と特性を持つ対象/対象と結論を導き出した一般化領域である。上記の声明から、この研究の人口は 2017/2018 年のムハマディヤ大学の日本語/日本語教育学科 I 言語教育研究プログラムの大学であると結論づけることができ、20 人に達した。

b. サンプル

Soehartono (2004 : 57) のサンプルは、調査される集団の一部であり、集団を説明すると考えられている。この調査のために採取されたサンプルは 20 世紀の 2017/2018 年のジョグジャカルタのムハマディヤ大学の日本語教育研究プログラムの学生で、観測技術を備えた最初の学期 I で 20 人である。Suharsimi Arikunto は、観察は、彼の身体的環境の直接的な観察であるか、または感覚装置を使用するすべての活動を含む進行中の活動の直接的な観察、またはデータを収集するための計画的かつ意識的な努力を体系的にである。Sugiyono (2013 : 2) の研究方法は、特定の目的と有用性でデータを取得す

である。この研究では、研究者は観察によるデータ収集方法を用いる。Arikunto (2013 : 192) は、この楽器は、研究者が選択して使用するツールであり、活動を体系的かつ容易にするためにデータを収集する活動を行うことを示唆している。

a. ノートとペン

ノートは、観察時にデータを取るときに重要な点を書き留める場所である。ペンはツールブックであるが、得られたデータを記録するのに役立つ。

データ収集ガイドライン、この論文では、研究者はいくつかの指針を持っている：

- a. 講師が資料を説明する方法である。
- b. どのような教材が得られたかを学生が理解する方法である。
- c. 生徒がすべてのことを繰り返す方法は、オーディオヒアリングで聞きてである。

A. データおよび研究の方法

この研究では、研究者は定性的アプローチによる記述的研究方法を用いた。Sugiyono (2009 : 21) 記述的研究とは、研究成果を記述または分析するために使用されるが、広範な結論を導くために使用されない方法である。Arikunto (2013 : 192) は、この楽器は、研究者が選択して使用するツールであり、活動を体系的かつ容易にするためにデータを収集する活動を行うことを示唆している。この研究では、研究者は次のような計測器ツールを使用した。

1. ノートブックは、観察時にデータを取るときに重要な点を書き留める場所である。ペンはツールブックであるが、得られたデータを記録するのに役立つ。

の論文では、研究者がノートやペンを使って、授業中の回答者の活動を記録する、データ分析手法を観測の形で使用している。研究者は重要な点についても留意し、研究者は第 2 章の第 1 章の問題の定式化について議論するアンケートを公表する。

これは、ムヒマディヤ・ジョグジャカルタ大学の日本語教育プログラムのレベル 1 の応答ですか。この論文では、研究者は、建物の正確にジョグジャカルタムハマディヤ大学に位置する午後 10 時 40 分に毎週水曜日の会議で 3 回行われた観測記録の形式でデータ分析を説明する。K.H Ibrahim が部屋のキキトリコースの E6. 403 にある。以下は、それらの研究者が行った観察結果の結果である。

研究成果

研究者が行ったデータ分析の結果を基に、観察と普及の形で、音声学習媒体として用いた学習対象紀行の応用は、昭和紀行の学習における音声メディアの応用は、第 1 回目の会議では通常、第 3 回目の会議が行われ、教室での観察中に研究者が行う聞き取り活動である。オーディオを聴くそれぞれの難易度は、オーディオ、発音、文、語彙のテンポに応じて変化する難しさがあり、生徒はオーディオから聴いた文を間違えて繰り返している。この観察に基づいて、音声メディアを使った昭和キキトリの学習の目的は、テーマ、語彙、文章を日本語で識別するシラバスの時に講師によって提出されている。講師は、講義を開始する前に、まずクラス調整を行い、サウンドシステムをチェックする。各会議で講師は、高速版の 2 倍と低速版の 1 倍の 3 倍の繰り返しを行っている。研究者らは 20 名の回答者にアンケートを配布した時点で、ほとんどの回答者が研究者の穀物グリルに同意している。

3. 結び

データ分析の結果に基づいて、被引用文献：1 被引用文献を見るにはログインが必要である。

a. オーディオメディアの使用

- 1) 主なメディアとしては、基礎的な日本語や初心者の学習者のための児童キキトリを学習するのに適した学習媒体として、音声メディアが選ばれている。
- 2) オーディオメディアから聞く目的は、日本語のスピーチ、日本の日常のテーマ、フレーズ、語彙の理解を確認することである。
- 3) オーディオメディアは、各章で異なるタイトルの 3 回のミーティングで使用される。
- 4) 第 1 章は、この女の人はだれですか。4 つの部分からなる問題である。第 2 章は、これは一ついくらかですか。4 つの部分からなる問題である。そして第 3 章では、300 円のを 2 キロください。4 つの部分で構成されている。
- 5) 1 回の会議では、講師はオーディオを 3 倍、2 倍、1 回遅く繰り返している。反復の目的は、生徒が集中して聞くことで、どのような文章を音声で聞くことができるかということである。1 回目と 2 回目のスクリーニングでは、学生はまだ集中することができるが、遅いバージョンのスクリーニングの後、すべての学生は笑っている。
- 6) 紀伊國屋書店の講座では、通常、講師であるパンガーンパ紀行講師の指導を受けている。聴覚メディアを使った昭和キキトリの学習障害は、基本的

なレベルの日本語の学習者や初心者と言え、まだ日本語を学ぶだけの学生にとっては新しいことなので、依然として奇妙に感じられる。

- b. オーディオメディア使用に対する学生の反応である。
- 1) アンケートの回答者 1 人が回答を出した回答者は、音声メディアを使用した学習教材の声明に同意し、65%もの回答を得られなかったである。
 - 2) アンケートに回答した回答者 2 人は、講義開始時に常に提供されていた音声メディアを使用して、昭和キキトリの主題で学んだ教材の声明に合致する回答を 80%も与えている。
 - 3) 回答者のアンケート回答に基づいて回答者 3 人が回答したが、興味深いことに楽しい学習方法の存在に同意し、楽しく 75%も楽しんである。
 - 4) アンケートに回答した回答者の回答をもとに回答者 4 人が強く同意し、昭文 50%キキトリの学習期間中の声明に同意している。
 - 5) アンケートに回答した 5 人の回答者をもとに、回答者は、講義者の教材の理解を向上させるために、講義者の繰り返り 70%して繰り返される音声の繰り返しの存在に強く同意している。
 - 6) アンケートの回答者から回答を得た回答者 6 名が回答した回答者は、聴聞会で聞き取った聴聞会で聞き取り調査を行い、学習資料の 70%である。
 - 7) アンケートの回答者からの回答に基づいて回答者 7 名が答えを出していたが、日本語の能力を向上させるためには、日本語の能力を 85%も向上させることが求められている。
 - 8) 回答者からのアンケート回答に基づいて回答者が回答したのは、「就活キキトリ」を習得して声明に同意したため、日本人以外の日本語を母国語としていない日本人の発音を 55%も区別できるようになりましている。
 - 9) アンケートの回答者から回答を得た 9 名の回答者は、講義者の聴講者である 50%もの聴きキキトリの主題に対する語彙の理解不足の声明に同意している。
 - 10) 回答者がアンケートに回答した回答数に基づいて回答者が回答した回答数は 10 人であり、聴聞会での音声メディアの使用に関する声明 45%には同意しない。
 - 11) アンケートに回答した回答者 11 人の回答者が回答した回答は、被験者紀行が勉強していると 65%も楽しいという声明に同意している。
 - 12) アンケート調査の回答者から回答を得た回答者 12 名が、自分の意見で同意した回答をいただきました。聞き取るキキトリの主題をオーディオメディアで勉強することは、昭和キキトリの学習を 75%も実践してくれましている。
 - 13) アンケートの回答者から回答を得た 13 名の回答者は、その時点で習得した音声の内容や内容が 70%も非常に面白いという声明に同意している。
 - 14) 回答者がアンケートに回答した点に基づいて回答者 14 名が回答したのは、今治きり毎日聞きとり 1 の声明 65%に同意している。

- 15) アンケートに回答した回答者の回答に基づいて回答した回答者は 15 名で、聞き取り時の気持ちは聞き取りやすいと聞きましたが、被験者の聞き取り率は 65% もありましている。
- 16) 回答者がアンケートに回答した 16 項目を回答者が回答した結果、聞き取り調査に合っていないと回答した聴聞会では、聞き手が聞き取りをする過程で 50% も非常にきれいだっている。
- 17) アンケートに回答者から与えられた回答に基づいて、回答者は、オーディオからの情報が非常に明確で、講演者の意味と意味の説明とともに、オーディオやテキストブックで演奏された資料を取り込むことがもはや困難でないという声明に同意した オーディオでの作業オーダーは最大 55% である。
- 18) アンケートの回答者から回答を得た 18 名の回答者は、85% も繰り返すオーディオやテキストブックを何度も繰り返し聞くことができるという声明に同意している。
- 19) 回答者から回答を得て回答者 19 名が回答した回答には、教科書の主食がきっかけであることを勉強すると感じる声明に同意した。私は 65% も楽しいである。
- 20) 回答者からのアンケート回答をもとに、20 名の回答者が、毎日キキトリの音声メディアの声明に同意しました。私は基礎レベルの学習者に適しており、初心者レベルは 80% もある。

c. 提案

この論文は、以下のように読者のために動機づけられるために作者によって作られている：

1. 教師用である

この論文は、日本語をもっと深く学ぶための参考資料として、特にオーディオメディアを使ったキキトリを学ぶために使用できることが示唆されている。

2. 研究者のためにである

この論文は、日本語の洞察力、特に聞く/聞く能力を持つキキトリを学び、キキトリを学ぶことに革新を加えることを示唆するものとして提案される。

3. 読者向けである

この論文は、特に音声メディアを通して聞き取り能力を習得するために、日本語を学ぶための資料として使用できると思う。

研究者は、「聴覚メディア利用の研究」の結論をもとに、将来の改善のために、考えるである。

a. 研究手順である

観測機器を使用してデータを収集する際に、得られたデータがより有効で実証されるように、回答者の数は一貫していなければなりません。アンケートに記入するアンケートは、

完了のために与えられたアンケートを完了している間に回答者が混乱しないように明確にすべきである。

b. 研究開発である

本研究では、昭和キキトリの過程でのオーディオメディアの利用について研究している。

- 1). 音声から再生される文章項目の解答の分析なのである。
- 2). 日本の日常生活における簡単な会話を理解するためのオーディオメディアの使用の有効性と思う。

教材として使用するオーディオメディアの使用を選択する際には、学生の能力に合ったオーディオメディアの推奨タイプは入手困難なオーディオメディアであり、結果音がはっきりしているので、聞き取り能力がある聴講喜楽キキトリコース それは非常に重要である。

参考文献

- Arikunto, Suharsimi. 2006. *Prosedur Penelitian Suatu Pendekatan*. Jakarta: Rineka Cipta
- Hariwijaya, M. 2007. *Metodologi dan Penulisan Skripsi, Tesis, dan Disertasi*. Bantul: Yogyakarta: Parama Ilmu
- Hidayah, Nur. 2012. Penggunaan Media Audio untuk Meningkatkan Keterampilan Menyimak Persoalan Faktual pada Siswa Kelas V SD Negeri 01 Sikayu Comal Kabupaten Pematang. Skripsi S.Pd pada FIP Universitas Negeri Semarang: Tidak diterbitkan
- Hissha, Ichidou. 1998. *Listening Tasks For Beginners Mainichi Kikitori 50 Hi Jo Everyday Listening In 50 Days Vol. 1*. Tokyo: Nihongo No Bojinsha
- Kesumawidayani, heri. 2012. Penggunaan Media Audio dalam Pembelajaran Bahasa Indonesia untuk Meningkatkan Keterampilan Menyimak. Skripsi S.Pd pada FKIP Pontianak: Tidak diterbitkan
- Mawaddah, 2015. Pengaruh Penggunaan Media Audio dalam Pembelajaran Menyimak Dongeng pada Siswa Kelas VII SMP Islam Al-Wasatiyah Cipondoh Tahun Pelajaran 2013-2014. Skripsi S.Pd pada FITK UIN Syarif Hidayatullah Jakarta: Tidak diterbitkan
- Program Studi Pendidikan Bahasa Jepang Universitas Muhammadiyah Yogyakarta. 2017. *Kurikulum Pendidikan Tinggi Program Studi Pendidikan Bahasa Jepang*. Yogyakarta : Program Studi Pendidikan Bahasa Jepang Universitas Muhammadiyah Yogyakarta

- Wati, Silvia Nuarita.2017.Penerapan Media Lagu pada Pembelajaran *Chuujoukyuu Choukai* Studi Deskriptif Mahasiswa PBJ Tahun Ajaran 2015–2016. Skripsi S.Pd pada FPB PBJ Yogyakarta: Tidak diterbitkan
- Widyaningrum, Kusuma Heny.2009. Penggunaan Media Audio untuk Meningkatkan Kemampuan Menyimak Dongeng Anak pada Siswa Kelas IV Sekolah Dasar. Skripsi S.Pd pada FIP Ikip PGRI Madiun: Tidak diterbitkan